

三木特産工業技術研究会 平成18年度2月移動例会レポート

月 日：平成19年2月23日（金）～24日（土）

場 所：株式会社サタケ、株式会社ディスコ、株式会社一休園（広島県）

担 当：市場開発委員会

2月例会は、市場開発委員会が担当しました。特産研究会では久々の1泊2日の工場見学となりました。今回の見学先は広島県呉市周辺のとってもユニークな4社を訪問しました。

株式会社サタケ

サタケさんは、1896年（明治29年）、日本で最初の動力精米機メーカーとして創業されています。以来、独創的な研究開発を積み重ねてこられ、世界でもトップクラスのシェアを持つ製品を数多くお持ちです。研究棟は、クリスタルラボラトリーというまるでホテルか美術館のようです。研究棟で会社説明を受けた後、工場を見学しました。本社工場では、米の中の異物を取り除く色彩選別装置の生産が行われていました。また、板金関連の設備装置もありました。金属加工・熱処理に関する質問には熱が入りました。

株式会社ディスコ

砥石メーカーから精密加工装置メーカーへと発展されたディスコさんは、とにかく極薄のダイヤモンドブレードに驚嘆いたしました。残念ながら、ブレード製造工程は、社内でも立ち入ることができる人間が制限されているとのことで見ることはできませんでしたが、切断砥石が発展してここまで来たのかと感心しました。あまりの精度の違いに、元「同業種」とは想像が付きませんでした。しかしながら、半導体メーカーさん各社で、シリコンウェハの切り方が違うようで、各々に適切なブレード特性を持たせないと満足な切れ味が得られないそうです。

株式会社一休園

熊野筆として有名な筆の産地にあるメーカーさんです。この地区には、化粧筆で有名なメーカーさんもあるようですが、今回は書道筆を主に製造販売されている一休園さんにお邪魔しました。材料の毛の配合から殆どの工程が人手作業でした。まだ機械化が出来ていない業界のようですが、ご他聞にもれず安価な中国品との競争が厳しくなっているようです。

株式会社ヤマトメック

精密機械装置部品を製造されているヤマトメックさんは、福祉機器の事業にも進出されています。精密機械加工では、「限界は出発点」の言葉のとおり、これまでできなかった加工を実現する逞しいフロンティアスピリットを目の当たりにしました。また、福祉機器では「お出かけ用の車椅子」を提案されていました。ヤマトメックさんの売りは、なんと言っても山崎社長個人に尽きると思います。

とにかく、聴衆（見学者）を飽きさせないそのお話は、強烈に心に残りました。

